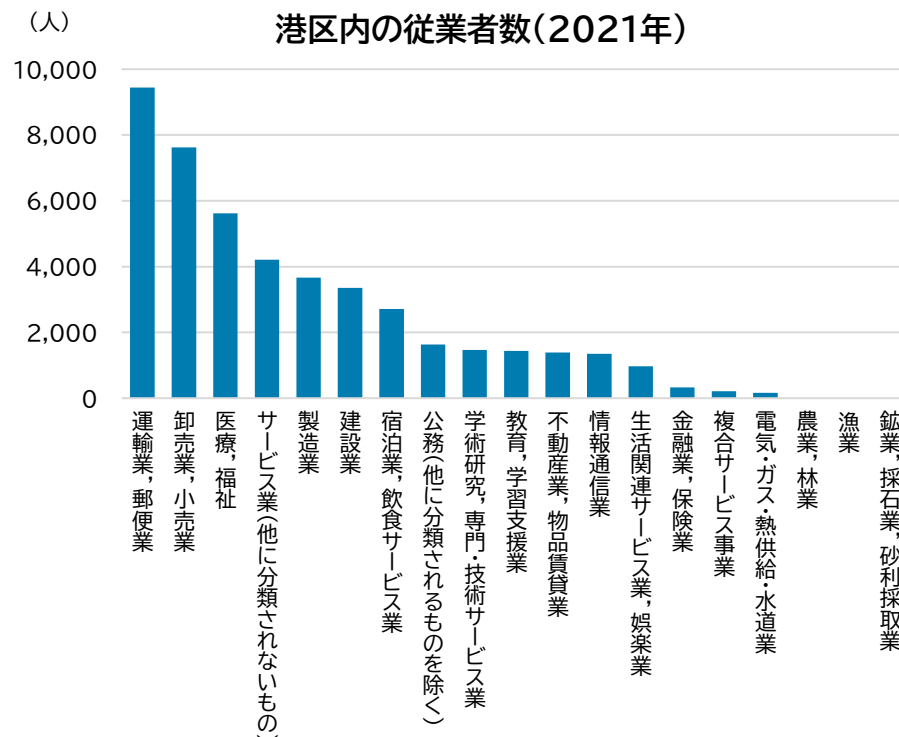
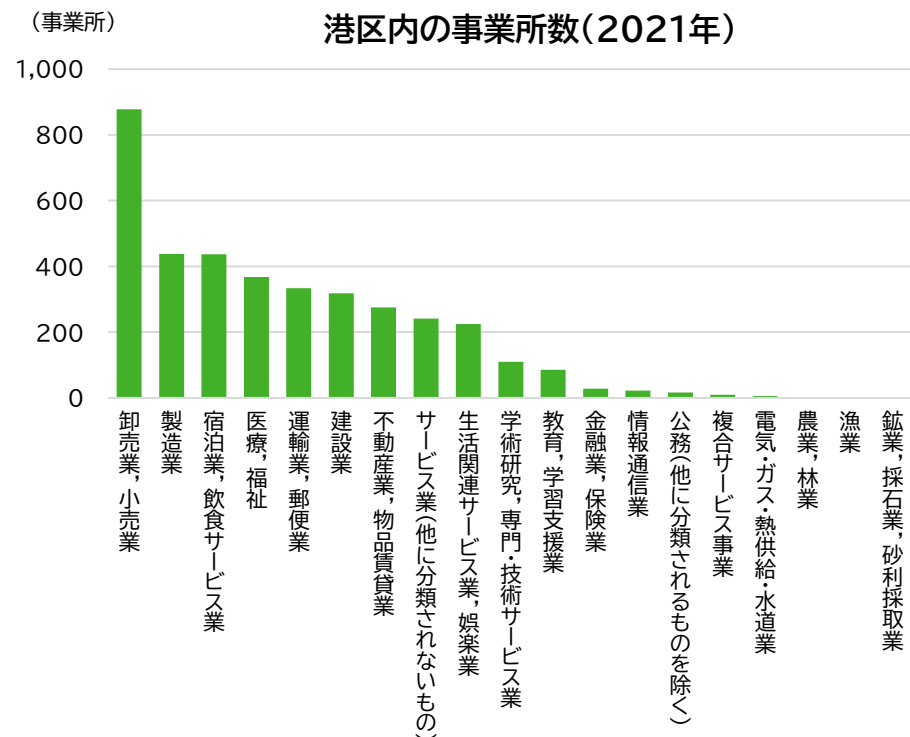


港区の特徴を示すデータ

—産業・健康・防災—

①港区の産業構造

事業所数は小売業・卸売業に次いで製造業が多く、その中でも金属製品製造業が多いことが特徴です。従業者数は運輸業・郵便業が最も多く、大阪港に面する港区ならではのデータと考えられます。



出所：経済産業省「経済センサス」

👉 港区のポイント

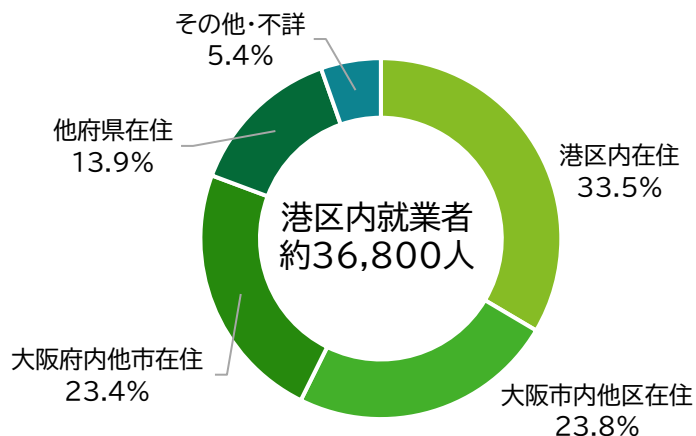
○金属製品を中心に製造業の事業所が集積している。一方、製造業の従業者数は多いわけではなく、小規模な事業所が多い。

○大阪港周辺に運輸業が発展しており、貨物運送や通関、貨物のこん包、倉庫業など運輸関連業務の従業者が多い。

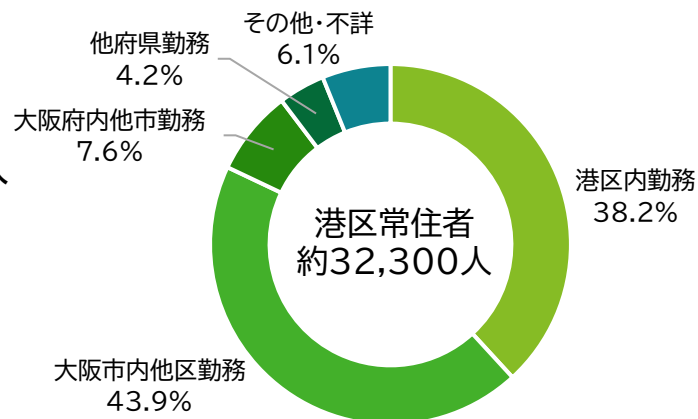
②港区で働く人の居住先／港区に住む人の勤務先

「区内に働きに来る人」と、「区外に働きに出る人」を比べると、前者の方が約4,500人も多くなっています。

港区で働く人の居住先(2020年)



港区に住む人の勤務先(2020年)



港区に住み、港区で働く人
約12,300人



港区外から働きに来る人
(流入人口):約22,500人

港区から区外へ働きに行く人
(流出人口):約18,000人

出所：総務省「国勢調査」

👉 港区のポイント

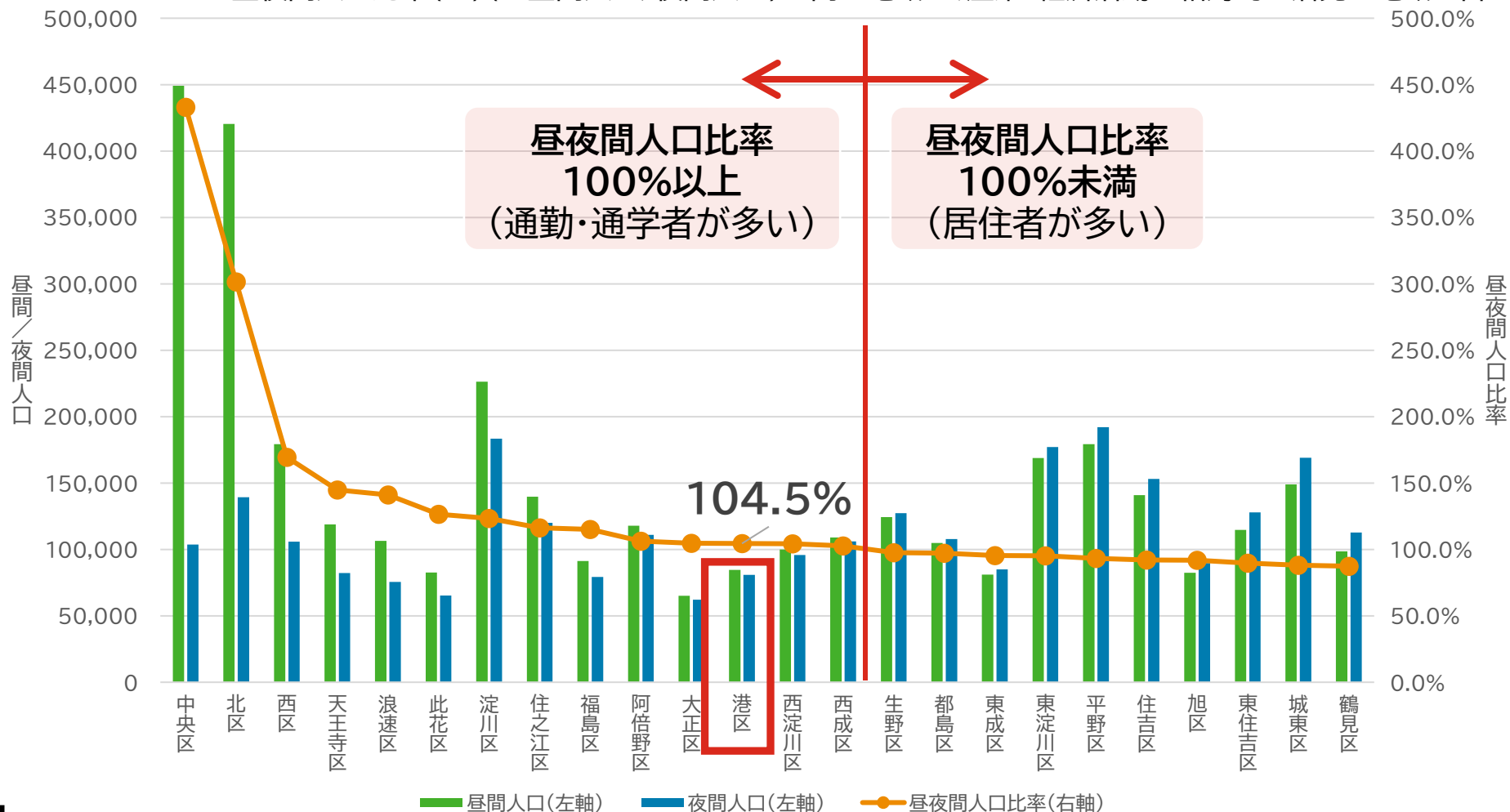
- 港区で働く人のうち、37.3%が大阪市外から通勤しています（府内他市町村：23.4%、他府県：13.9%）。
- 市内中心部（梅田、本町、難波、天王寺など）へのアクセスがよいため、港区から市内他区へ働きに行く人が約44%と最も多く、次いで港区内に住み、区内で働く人が38.2%に及んでいます。

【参考】大阪市各区の昼夜間人口比率

夜間人口＝区内にお住まいの方の人数

昼間人口＝夜間人口＋（通勤・通学で区内に来られる方－通勤・通学で区外へ出ていく方）

※昼夜間人口比率(%)（＝昼間人口/夜間人口）が高い地域は、産業・経済活動が相対的に活発な地域と言える



③港区の健康寿命

港区の健康寿命は、男性、女性ともに大阪市平均をやや下回っています。

健康寿命（男性）		健康寿命（女性）	
			
2020年	港区	77.66歳 (市内18/24位)	82.70歳 (市内19位/24位)
	【参考】 市内1位	80.45歳 (阿倍野区)	85.11歳 (福島区)
	【参考】 大阪市平均	77.80歳	83.37歳
2019年	【参考】 全国平均	79.91歳	84.18歳

健康寿命とは

「ある健康状態（大阪市においては『日常生活動作が自立している期間』）で生活することが期待される平均期間またはその指標の総称」



介護や支援を必要とせず、元気に自立して生活できる期間のこと

出所：大阪市「年次別健康寿命（市・24区）」令和2年データ、大阪市「すこやか健康21(題3次)」

港区のポイント

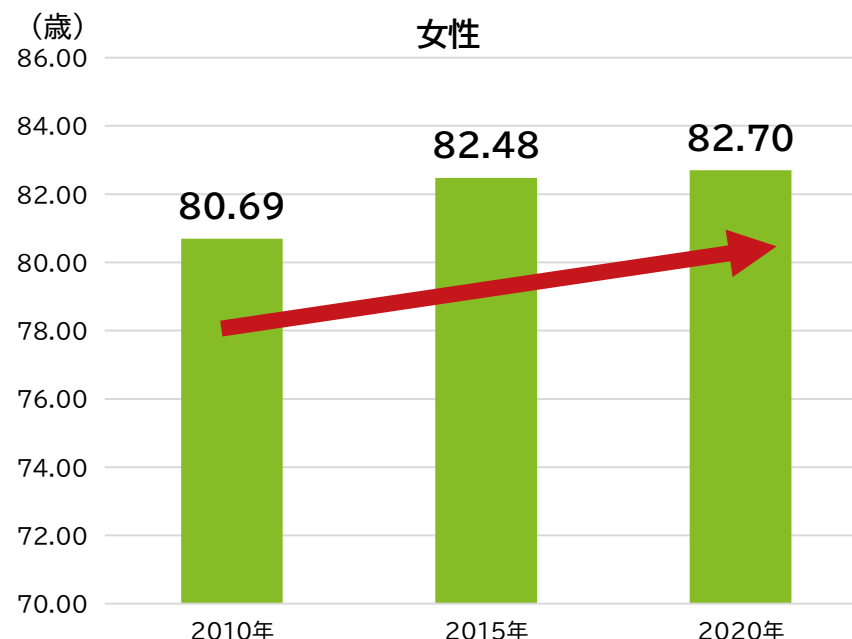
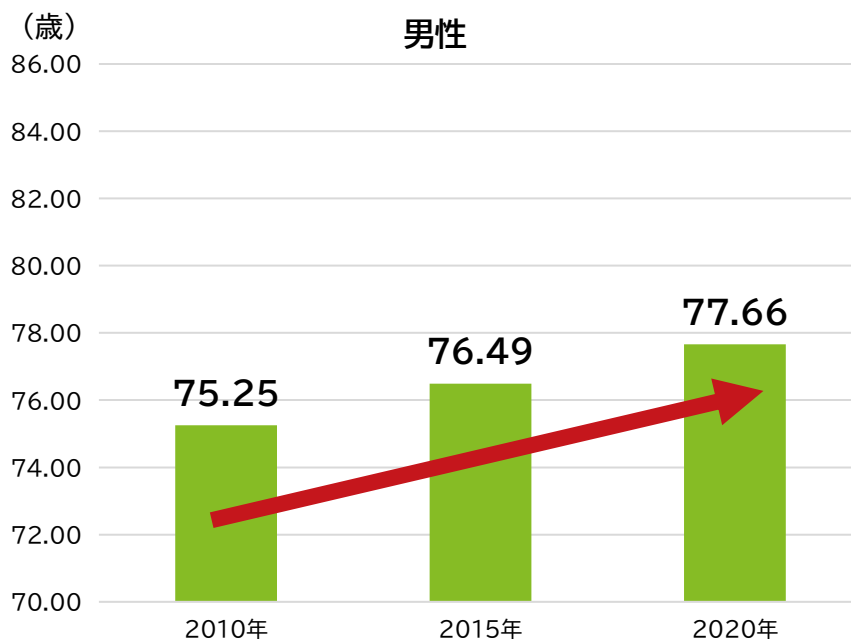
○男女ともに、**健康寿命は大阪市平均をやや下回っています。**

○大阪市は、健康増進計画「すこやかおおさか21（第3次）」において、生活習慣病の予防、生活習慣の改善、健康を支え守るための地域づくりの3点の方向性を掲げています。

④港区における健康寿命の推移

港区の健康寿命は大阪市平均をやや下回っていますが、男女ともこの10年間で伸びています。

港区の健康寿命の推移



出所：大阪市「年次別健康寿命（市・24区）」

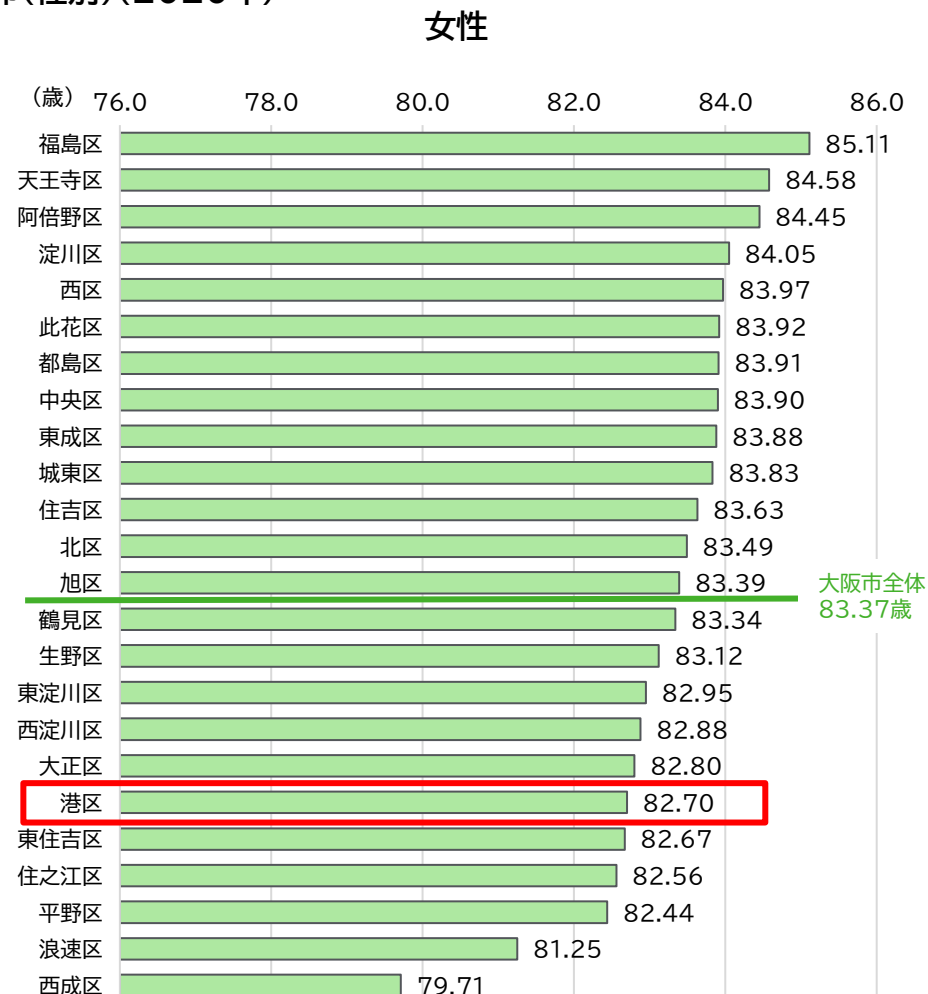
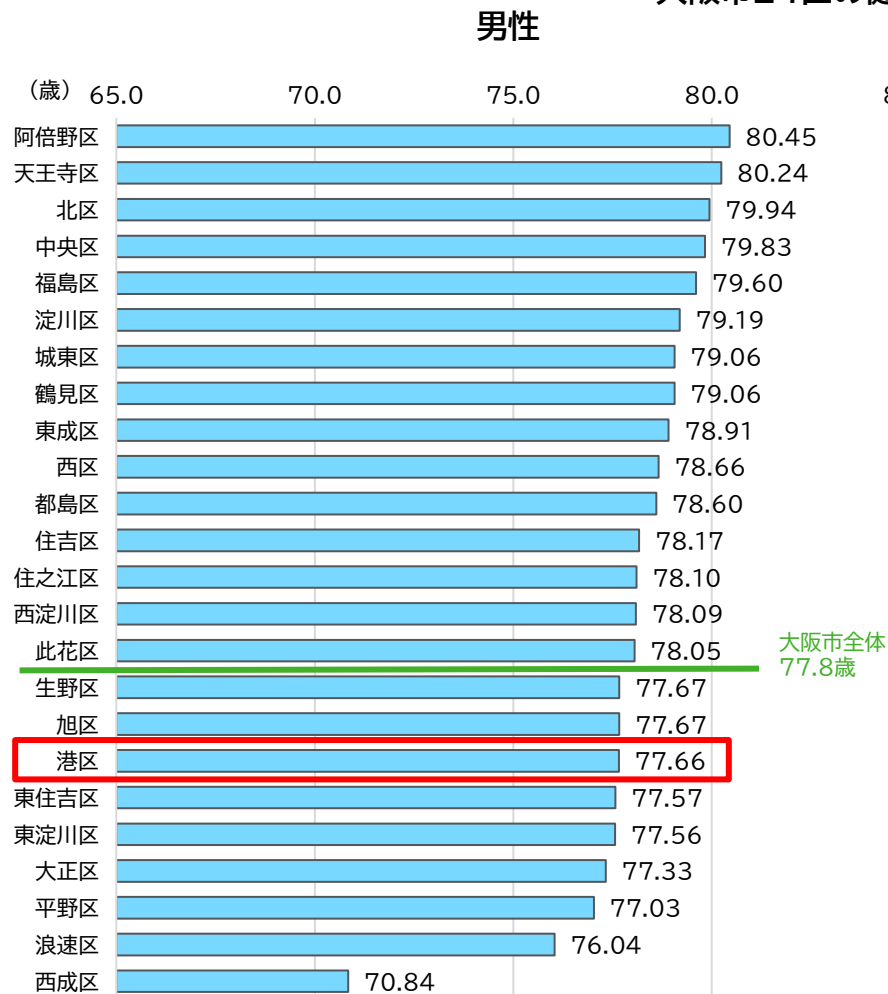
👉 港区のポイント

- 健康寿命は大阪市平均をやや下回っていますが、港区の健康寿命は伸びています。
- 健康寿命は、「介護や支援を必要とせず、元気に自立して生活できる期間のこと」と定義されており、今後ますます高齢者の比率が高まる状況が見込まれる中、重要な指標として注目されています。

【参考】大阪市各区における健康寿命

大阪市24区の健康寿命のデータは以下のとおりです。

大阪市24区の健康寿命(性別)(2020年)



⑤港区の特定健康診査受診率

港区の特定健康診査受診率は、男女ともに市内24区でも低い水準にあります。

	特定健診受診率（男性） 	特定健診受診率（女性） 
港区	21.2% (市内20/24位)	26.1% (市内22位/24位)
【参考】 市内1位	26.9% (阿倍野区)	32.6% (阿倍野区)
【参考】 大阪市平均	22.8%	28.6%

特定健康診査とは

40歳～74歳の方を対象に実施する、メタボリックシンドロームに着目した診査のこと

出所：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」

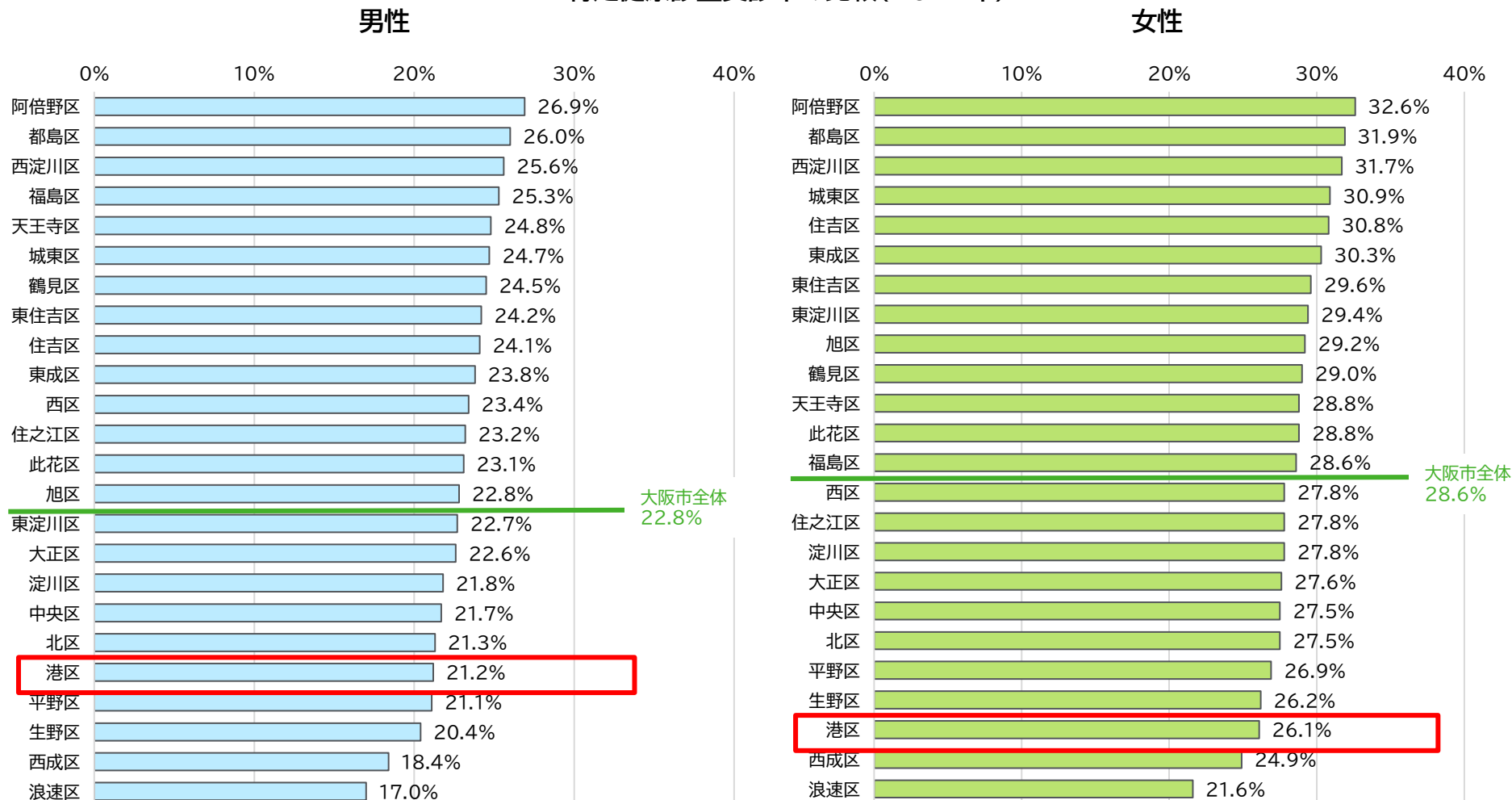
港区のポイント

- 港区の特定健康診査受診率は大阪市内でも低い水準になっています。
- 特定健康診査は、生活習慣病（高血圧・脂質異常・高血糖など）のリスクを高めるとされるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）やその予備群の方を早期に発見し、生活習慣病の予防・改善することを目的として実施しており、受診率の向上に取り組んでいます。

【参考】大阪市各区の特定健康診査受診率

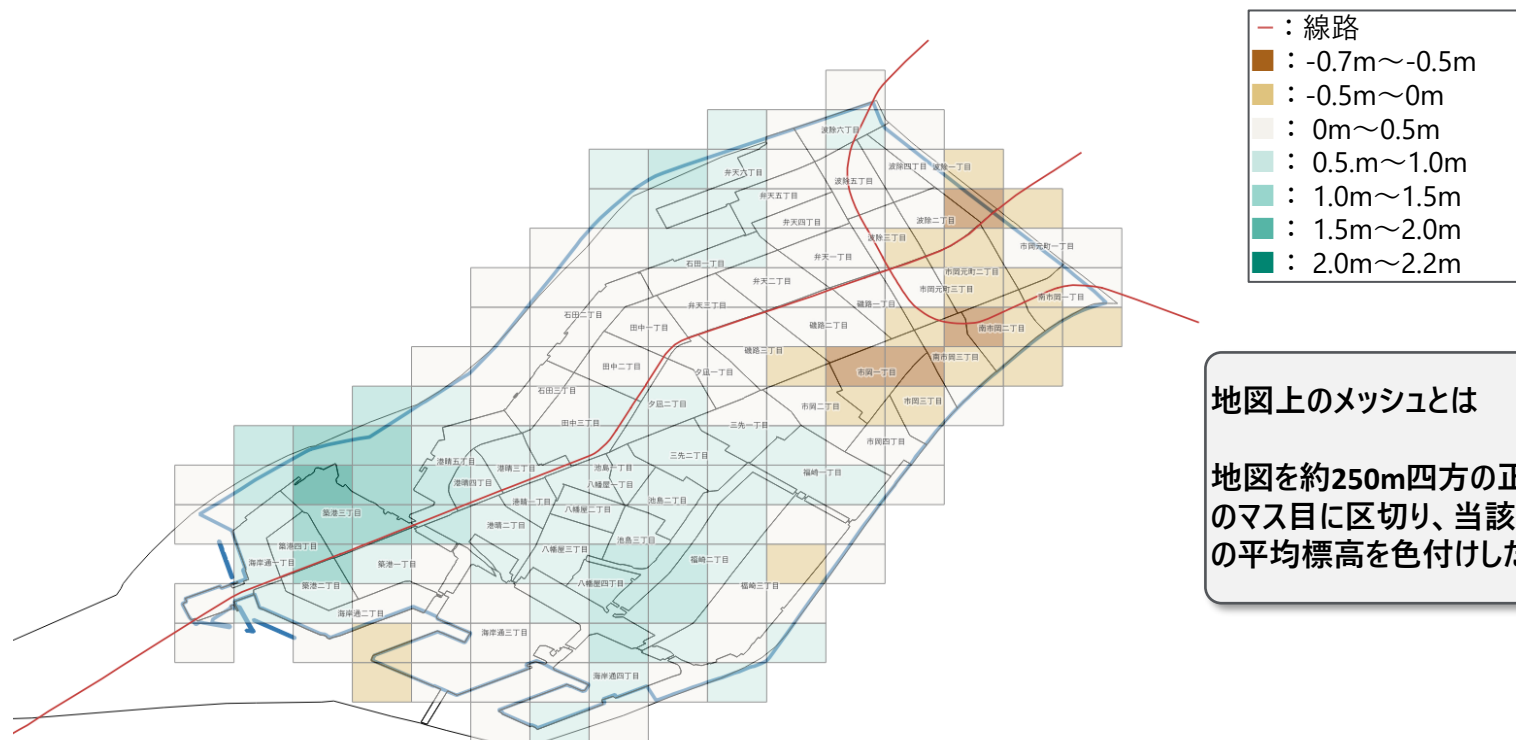
大阪市24区の特定健康診査受診率のデータは以下のとおりです。

特定健康診査受診率の比較(2024年)



⑥港区の平均標高（約250mメッシュ）

港区は全体的に標高が低く、大阪湾に面した立地も相まって、水害のリスクが高い地域です。特に港区の東南部エリアでは平均標高がマイナスの地域が多くなっています。



地図上のメッシュとは

地図を約250m四方の正方形のマス目に区切り、当該範囲の平均標高を色付けたもの

出所：「国土数値情報ダウンロードサイト」（国土交通省）、e-stat（総務省）、「大阪市オープンデータポータルサイト」、「google map」に掲載された情報を基に作成

👉 港区のポイント

- 区域全体の標高が低く、平均標高が最も高い地域でも天保山公園付近の2.2m程度となっています。
- 特に、尻無川に近く平均標高がマイナスとなっている市岡エリア、南市岡エリアにおいては、例えばゲリラ豪雨による内水氾濫などが発生すれば、浸水の影響が長引くおそれがあると考えられます。

⑦港区の水害想定（津波浸水想定）

港区の概ねすべてのエリアで少なくとも0.3m以上の浸水が発生する想定です。

特に標高の低い東南部エリアや大阪港駅周辺では甚大な浸水被害が発生する予想となっています。

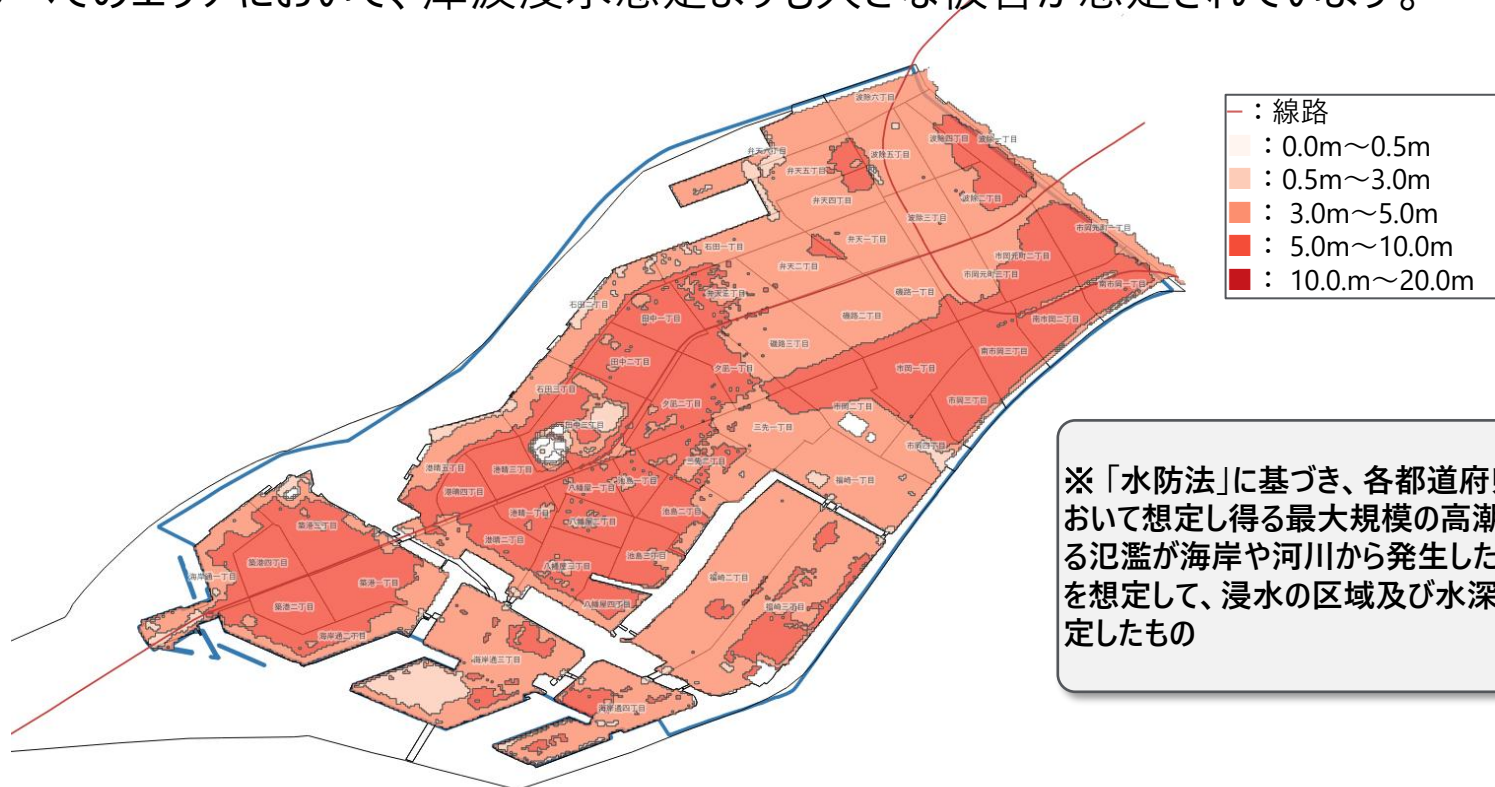


👉 港区のポイント

- 大規模な津波が発生した際には、**概ねすべてのエリアで少なくとも0.3m以上の浸水**が発生する想定となっています。
- 大阪港駅周辺や尻無川に面する区東南部の地域では、約2m以上の浸水が想定されています。

⑧港区の水害想定（高潮浸水想定）

港区の概ねすべてのエリアにおいて、津波浸水想定よりも大きな被害が想定されています。



出所：「国土数値情報ダウンロードサイト」（国土交通省）、e-stat（総務省）、「大阪市オープンデータポータルサイト」、「google map」に掲載された情報を基に作成

👉 港区のポイント

○台風や豪雨などにより大規模な高潮が発生した際には、**概ねすべてのエリアで少なくとも0.5m以上の浸水**が発生する想定となっています。

○港区全体の半分以上で5.0m以上の浸水が想定されており、普段から災害への備えが求められます。